

1 収益不動産の期待利回りの推移

期待利回り=キャップレート：投資家が不動産から期待する収益性（利回り）のこと。

賃料一定のもとでは、キャップレートの低下は投資不動産価格（ここでは戸建）の価格上昇を意味します。

東京都変動 (全期間)

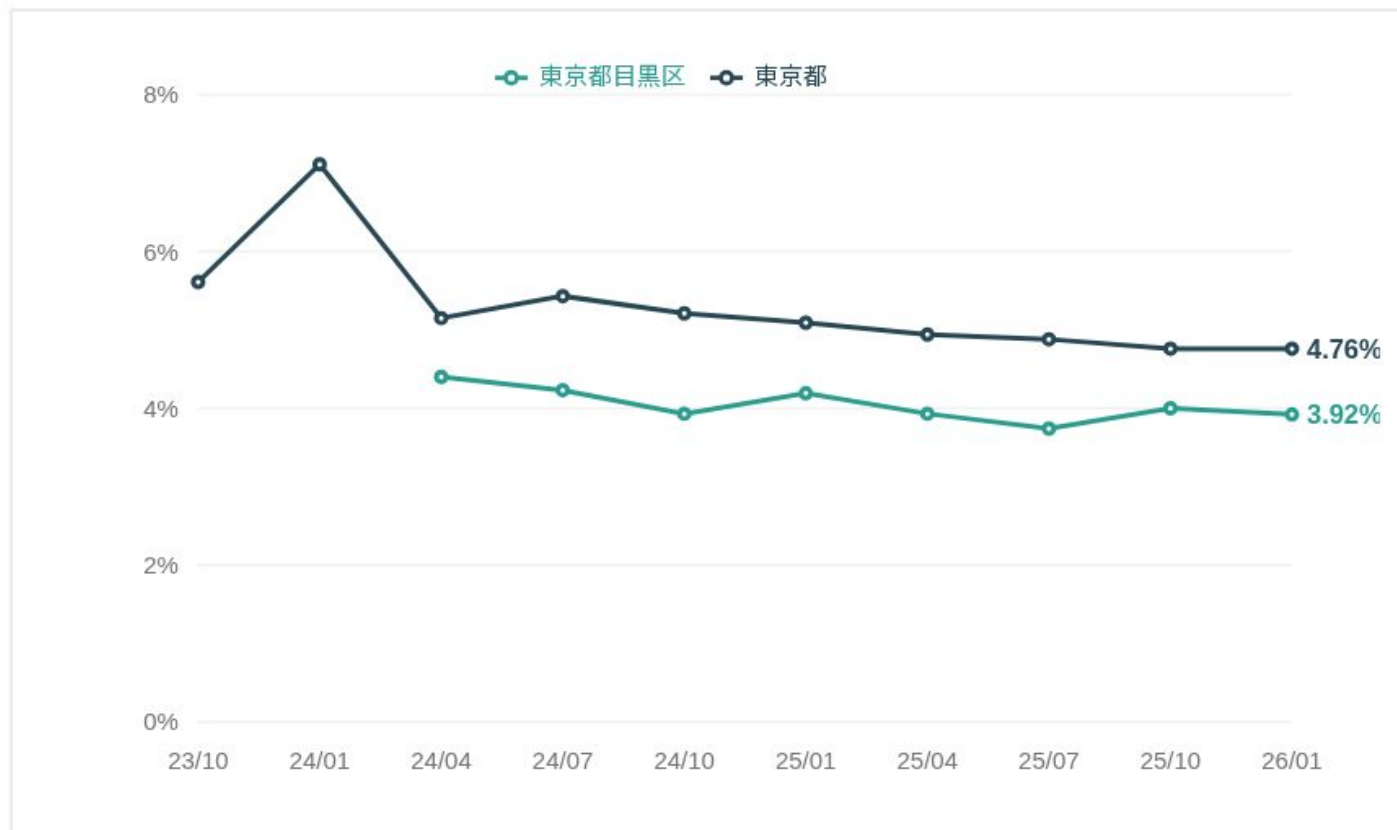
-0.25pt

東京都目黒区変動 (全期間)

-0.36pt

現在の差

-0.73pt



出典：政府統計、オープンデータ、自社取引履歴、外部調査機関

想定条件

※ここで想定する収益物件は以下の通りです
交通アクセス：最寄り駅から徒歩15分以内
金額代：3000万円以上
土地面積：30㎡以上
延べ床面積：50㎡以上
土地権利：所有権のみ



POINT データ解説

都全体は24/01に7.11%へ急伸後、反落しつつ緩やかに低下、26/01は4.76%。目黒区も漸減基調で、25/07の3.74%が谷、25/10に4.00%へ小反発。以降は4%前後で推移。

利回りは圧縮局面につき、都は5%割れで横ばい、賃料上げや改装余地のある物件を優先し、運営費の圧縮も。目黒区は4%前後で買付検討、長期固定で空室悪化にも耐える設計とし、取得価格の見極めを厳格に。

2 売買価格推移

売買価格について

売買価格：マーケットで取引された戸建の価格水準。

取引価格と単価（坪・㎡）の両指標を時系列で見ることで、市場の値動きと面積効率の両面から相場を把握できます。



POINT データ解説

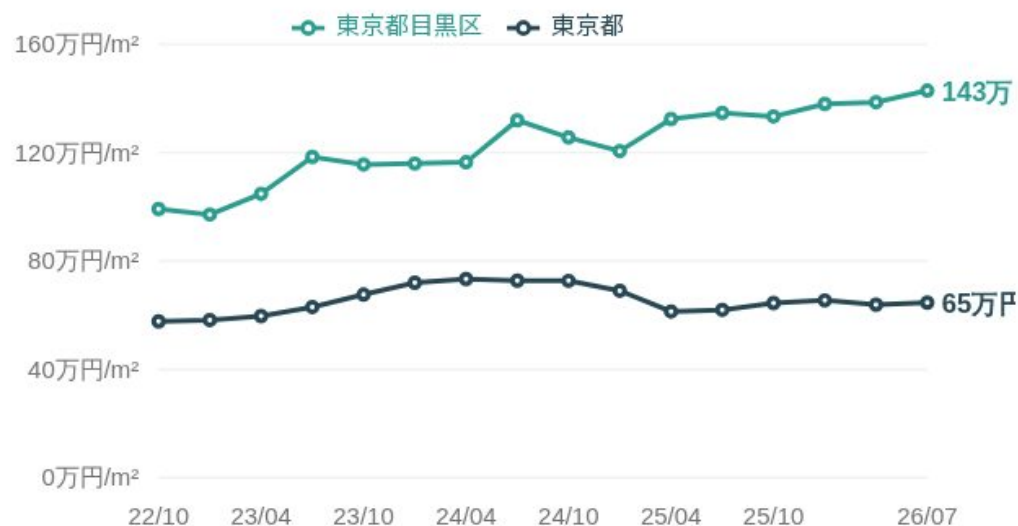
目黒区は22年後半から上昇基調で、26/07に142.9万円/㎡と最高値。24年後半に一時反落後、25年以降は再加速し、都全体の25/04以降の減速と対照的。

上昇が続く間は条件が合う物件を早めに確保。短期は反落局面を狙い、価格差が広がる今は区外も併用して分散購入でリスクを抑える。

価格



単価



3 在庫数の推移

在庫数：マーケットに公開されている戸建の件数。

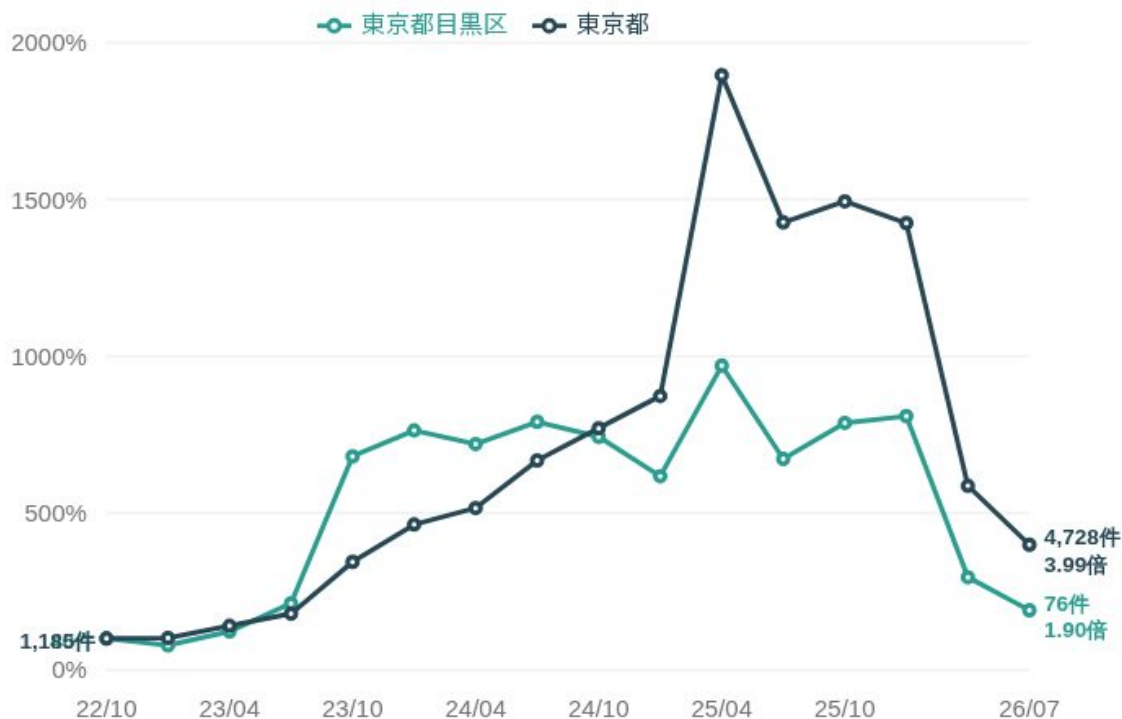
在庫の増減は需給バランスを示す先行指標であり、価格・利回り動向の理解に役立ちます。

東京都変動 (前年同月比)

-72.8%

東京都目黒区変動 (前年同月比)

-73.9%



出典：政府統計、オープンデータ、自社取引履歴、外部調査機関

想定条件

※ここで想定する収益物件は以下の通りです
 交通アクセス：最寄り駅から徒歩15分以内
 金額代：3000万円以上
 土地面積：30㎡以上
 延べ床面積：50㎡以上
 土地権利：所有権のみ



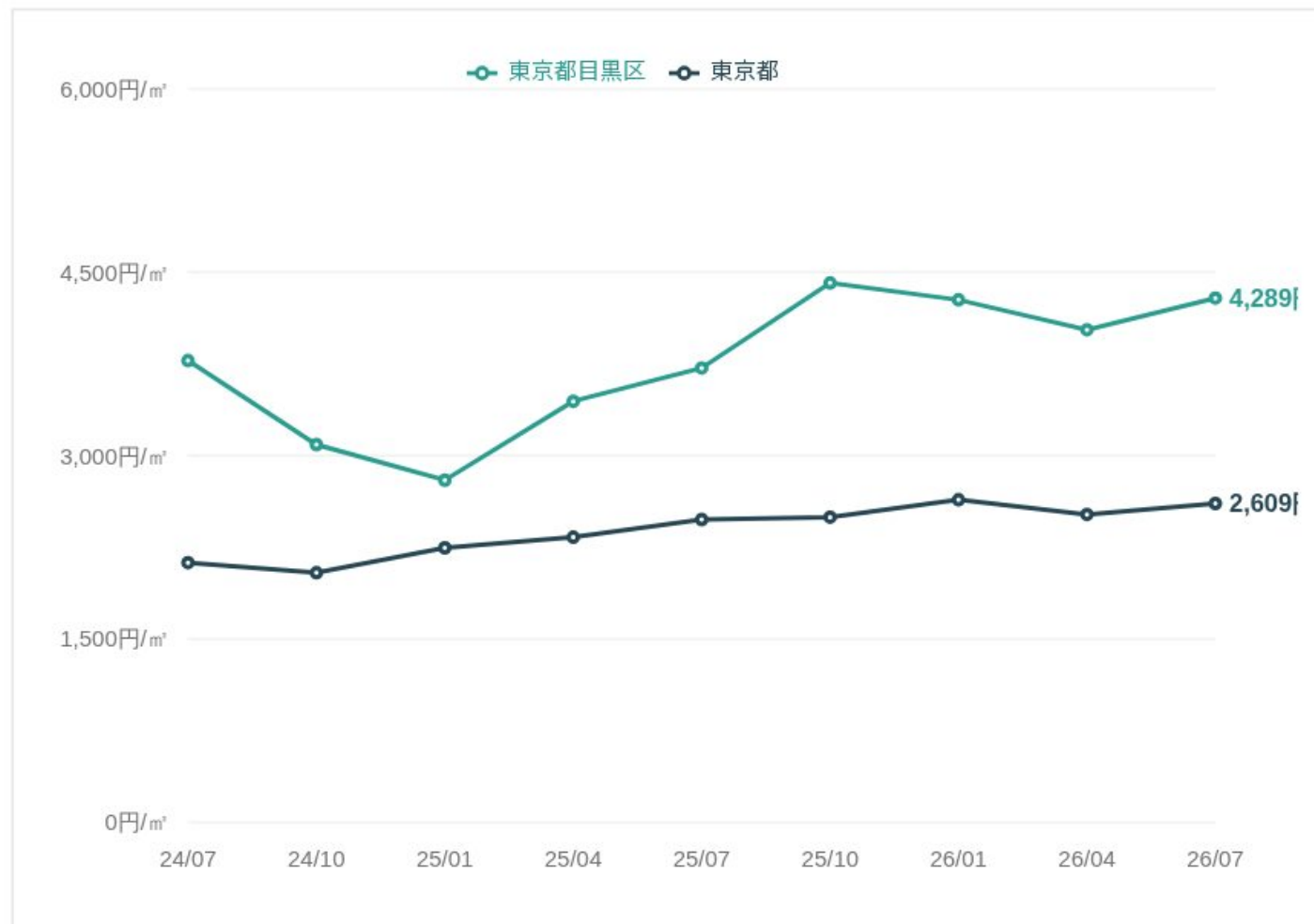
POINT データ解説

目黒区・東京都とも在庫は22/10から増加基調で、25年春に急拡大。都は25/04に約2.25万件で急騰後、26/04以降に急減し、目黒も26/04に約118件へ急落が目立つ。

在庫縮小局面では良質物件の競争が強まるため、買い手は内見・申込を迅速に。売り手は希少感を活かし値下げを急がず、反応の強い時期に出稿と販促を強化。

4 賃貸賃料単価の推移

賃料単価：マーケットに公開されている戸建の月額賃料を面積（㎡）で割った単価（円/㎡）。
選択エリアと都道府県全体を比較することで、賃料水準の相対的な高低と推移を把握できます。



出典：政府統計、オープンデータ、自社取引履歴、外部調査機関

想定条件

※ここで想定する賃貸物件は以下の通りです
公開中の賃貸募集データに基づく
賃料単価＝（月額賃料＋管理費等）÷専有・延床面積
外れ値を除外して集計



POINT データ解説

目黒区は24/10～25/01に急落後、25/10に急騰し、その後は高水準で変動。変動幅は都平均を大きく上回り、都全体は緩やかな上昇で26/04のみ一時反落。

目黒区は変動が大きく、下落時の取得と募集賃料の小刻みな見直しが有効。都全体は上昇基調で、短期の下振れは購入・更新タイミングの好機となる。



TLLが提供する不動産仕入特化データプラットフォーム Urbalytics

AI駆動の市場分析と業務自動化で、収益不動産の仕入プロセスを高速化・標準化します



マルチチャネル物件監視

複数の物件情報チャネルを横断的に常時モニタリング。新着・価格改定・ステータス変更を即座に通知し、仕入機会を一件も逃しません。



賃料アップサイド可視化

数百万件規模の賃料履歴データに基づき、各物件の潜在的な賃料アップサイドを定量化。実績に裏打ちされた精度で、収益改善余地を一目で把握できます。



AI自動仕入スキャン

自社の仕入ルールを事前登録しておけば、市場の不動産をAIが自動でスキャン・分析。人手作業を大幅に削減し、レインズ等の外部データソースとも柔軟に連携可能です。

...そのほかにも多数の機能をご用意しています

Urbalyticsのご導入をご検討の不動産会社様は、support@urbalytics.jp までお気軽にお問い合わせください。

△ ご留意事項

※不動産投資はリスク（不確実性）を含む商品であり、投資元本が保証されているものではなく、元本を上回る損失が発生する可能性がございます。

※本マーケットレポートに掲載されている指標（例：利回り、賃料、不動産価格、REIT指数、金利など）は、不動産市場や金融市場の影響を受ける変動リスクを含むものであり、これらの変動が原因で損失が生じる恐れがあります。投資をする際はお客様ご自身でご判断ください。当社は一切の責任を負いません。

※本マーケットレポートに掲載されている情報は、2026年9月1日時点公表分です。各指標は今後更新される予定があります。

※本マーケットレポートに掲載した記事の無断複製・無断転載を禁じます。